運動機会充実を図る環境整備事業

青葉中など15校に決定

札幌市教委 子の声反映

札幌市教委は、学校における運動機会の充実を図る環境整備推進事業の本年度推進校に青葉中学校など15校を決定した。各推進校は「さっぽろっ子自治的な活動」と関連付け、子どもの声を反映した環境整備などに取り組む。

事業は、子どもの運動に対する意欲の向上と運動習慣の定着を図るとともに、取組の成果等を広く全学校へ普及・啓発することが目的。

5年度全国体力・運動能力、運動習慣等調査結果などを踏まえ本年度は、さっぽろっ子自治的な活動と関連付けるなど、子どもの声を反映した運動機会の充実を図る環境整備や取組を進めることで、より多くの子どもが運動の楽しさや喜びに触れ、主体的に運動に親しむことができるようにすることを主眼として進めることとしている。

来年2月に報告書

各推進校は、パートナー校などと連携しながら具体的な実践を推進。来年2月ごろに報告書をまとめ市教委に提出する予定だ。

本年度の推進校はつぎのとおり。

▽青葉中
▽新札幌わかば小
▽北九条小
▽白楊小
▽幌北小
▽北辰中
▽手稲西中
▽手稲西小
▽しらかば台小
▽羊丘小
▽大谷地東小
▽福住小
▽川北小
▽新陵小
▽平岸高台小のぞみ分校

札幌市 市内保育所保育受給計画

保育定員 確保数微減

7年4月で「充足」見込む

札幌市子ども未来局は、市内保育所等における保育受給計画の進捗状況をまとめた。本年度の幼稚園を除く保育定員は認可保育所の廃止などに伴い、確保数の微減が見られた。今後は、ニーズに応じた供給量を確保する見込みで、7年4月時点では全市的に充足する見込みとなっている。

第4次さっぽろ子ども未来プランで掲げている保育・教育の確保方策では、2年度から7年4月を計画期間に設定。4年度の中間見直しで判明した保育ニーズに対応する供給量を7年4月までに確保することを目指している。

9日に開かれた子ども・子育て会議認可確認部会では、次年度の市内全区における保育・教育需給計画案を公表。次年度は4幼稚園が幼稚園型認定こども園に移行することに伴い、ニーズを踏まえた供給量はゼロ歳で1315人、3～5歳（2号教育）で3821人の充足が図られる見込みを示した。

認可保育所の廃止に伴い、3～5歳の2号保育はマイナス92人、2号教育はマイナス1717人と供給を満たしていないものの、保育と教育を勘案した需給状況は全市的に充足する見通し。

各区の状況をみると、中央区はゼロ歳、1～2歳、3～5歳（2号 保 育・教育）、3～5歳（1号）の全ての定員で需要を満たしている。

札幌市子育て会議児童福祉部会

母子生活支援施設

すずらん改築へ

8年11月完成 宿直室新設

札幌市子ども・子育て会議第2回児童福祉部会が8日、オンラインで開かれた。老朽化が進む母子生活支援施設すずらんの改築について承認した。8年11月ごろに完成予定で、24時間体制を見据え新たに宿直室などを設ける予定だ。

市内には母子生活支援施設が計4ヵ所あり、母子家庭などが自立促進に向けた生活支援などを受けている。

中央区にあるすずらんは、建築から42年が経過し老朽化が進んでいることから、運営者の道社会福祉事業協会から申請を受け、整備計画を提案した。

新施設は、現施設と同じ土地に建て替える考え。鉄筋コンクリート造4階建で延べ床面積は1564・24平方㍍としている。

母子室は、現施設と同じ20室を設置。このほか、短期入所での使用を想定した居室を2室用意する。

また、24時間対応ができる体制を見据え、新たに宿直室や休憩室を設ける考えだ。保育室も新設し、施設内の共有スペースを拡張する。

来年9月ごろの着工を予定しており、8年11月ごろの完成を目指している。

委員からは「短期入所での使用はどのようなケースを想定しているのか」「工事中は、施設に隣接する保育園への配慮を」などの意見や質問が上がった。

包装資材企業に感謝状

札幌市 絵本基金寄付で

札幌市子ども未来局は8日、同局で絵本基金「子ども未来文庫」への寄付に対する感謝状贈呈式を行った。容器包装資材の㈱新生が絵本42冊（5万2899円相当）を寄付。佐藤学局長が三輪朋弘専務に感謝状を手渡し、3回目の寄贈に謝意を示した＝写真＝。

絵本基金は、企業や市民から就学前の子どもを対象に絵本の寄付を募るもので、平成20年に始まった。子育て支援施設等の蔵書を充実させ、絵本に触れる機会を増やすことを目的としている。

同社は、さっぽろエコメンバーやさっぽろ受動喫煙防止宣言への登録、西区アダプト・プログラムなどの社会貢献事業に参画する中で、より身近な地域への貢献を模索していた際、取組の紹介を受けたことを機に寄付を実施。今回で3回目の寄贈となった。

この日は、三輪専務が出席し、佐藤局長から感謝状を受け取った。

寄贈した絵本が役立てられていることに対して、三輪専務は「小さい頃に絵本を読んで楽しかった思い出がある。子どもたちにも同じように楽しんだり、新しい気付きを得たり、成長の糧にしてもらいたい。寄贈した絵本で、笑顔になってくれることが何よりの喜び」と話した。

同社が寄贈する絵本は、子育て支援担当課が各施設でまとめた希望リストに沿ったもの。今後市内の子育て支援施設など14ヵ所に寄贈される。

札幌太平中 小中合同研修会

意欲的に学び合う生徒

小中一貫教育へ6授業公開

札幌市立太平中学校（窪田進二校長）は3日、校区内の小学校の教職員を招いて第5回小中合同研修会を開催した＝写真＝。研究主題「意欲的に学び合う生徒の育成」のもと、6授業を公開。7年度からの札幌らしいコミュニティ・スクール（CS）実施に向けて、小中が一体となった子どもへの指導の在り方を考え合った。

同校と太平小学校、太平南小学校は、7年度からのCSの実施に向け、5年度から各校持ち回りで、授業や子どもの学習態度を参観する機会を設定している。

この日は、1年生と特別支援学級で計6授業を公開し、中学校区内の教職員60人が参観した。

うち1年2組（飯坂美紅教諭、生徒数22人）の技術・家庭科では、窪田校長が加わり、情報モラルの知識を実際の場面でどう対応するべきかを考えさせる授業を展開した。

物語の内容は、主人公の読書感想文が親友にコピー・アンド・ペーストで引用され、両者の文章が似ていることを怪しんだ担任に問いただされるというもの。

窪田校長は物語を朗読し、生徒たちに「親友が主人公の読書感想文をコピペしたことを先生に言うべきか」と問いかけた。個人で考える時間を設けたあと、それぞれ同じ意見を持つグループに分けて意見を練り上げさせた。

生徒たちは「勝手に人の感想文を盗むのは良くない」「後悔するから言うべき」「友人関係が壊れるかもしれないし、相手に心の傷が残るかもしれないから言わない」などと話し、対立する意見を発表した。

グループで討議したあと、窪田校長は「意見の異なる相手に対して意見を変えるよう試みてほしい」と提案した。

生徒たちは、反対意見に対して「コピペだと分かる証拠があれば正当性は主人公にあるから言うべき」「正当性よりも友情だ」「言うことで崩れる関係ならそれまで」「モヤモヤを抱え込むことになっても親友を失いたくない」などと発言した。

討議を終えて意見が変わったかを確認したところ、ほとんどの生徒が意見は変わらなかったと回答した。

窪田校長は「同じ意見、近い意見を持つ人同士が集まると、異なる意見を知ることができずに考えが固まる」と指摘。SNSのアルゴリズムを例に、エコーチェンバーの危険性を説き「論破や相手の言葉尻を捉えて反論をするのではなく、相手の話を聞き深く考えることをしてほしい」とクリティカルシンキングに基づく行動を心がけるよう呼びかけた。

このあと、研究討議を開き、児童生徒が意欲的に学び合う授業づくりや、ICTを活用した指導の個別化、授業における学習の個別化を進めるための方策などについて話し合った。

開校10周年記念誌発刊

星槎もみじ中 活動の変遷紹介

星槎もみじ中学校（澤口文裕校長）は、開校10周年記念誌「星槎でかなえる」（A4判、35㌻）を発刊した。

同校は平成26年4月、全国11番目、道内初の学びの多様化学校（不登校特例校）として開校した。記念誌では「教育活動の変遷について」として同校の教育活動の変化を「10年の歩み」として開校から現在に至るまでの学校行事や生徒たちの学びを紹介している。

澤口校長による振り返りと今後に向けての思いのほか、初代校長・見方益夫氏や初代事務長・津田昭彦氏の祝辞、保護者の会「星燦会」の歩み、これまで同校に関わった教職員からのメッセージを記載している。

澤口校長は記念誌発刊に当たり、同校がこれまで大切にしてきた「子どもファースト」の考え方に触れ、これから10年後の未来に向けて「引き続き、生徒の可能性や潜在能力を引き出していく」と抱負を記している。

11月12日セミナー

札幌市PTA協

札幌市PTA協議会（高原周作会長）は、11月12日午前10時から市内のちえりあで6年度研修セミナーを開催する。

㈱Paulatinoの代表取締役、北海道コンサドーレ札幌アカデミーダイレクターの石川直樹氏が「子どもの〝生きる力〟の育み方」をテーマに講演する。